

防犯に効果あり！「あいさつ」の防犯力

- 神戸市内の新興住宅地では、当初、住民間の円滑なコミュニケーションを図ることを目的として「あいさつ運動」を取り入れましたが、予想外の効果として空き巣などの被害が皆無となったそうです。
- 侵入盗（泥棒）が、犯行をあきらめた理由で最も多いのは「近所の人に声をかけられた」「近所の人からジロジロと見られた」というもので、挨拶をされたことで、「顔を見られたかもしれない」「この地域は防犯意識が高い」と思い、不審者を寄せ付けないそうです。
- 不審者の下見のポイントに住民間のコミュニケーションがあり、犯罪者は、近所づきあいが悪く人間関係の希薄な地域を好みます。
- 「あいさつ」は、犯罪者の近づかない町をつくれます。
皆で「あいさつ」を行い、犯罪の起こりにくい町にしましょう。



町をきれいにしよう！

- 「破れ窓理論」という言葉をご存じでしょうか。
アメリカの犯罪学者が考案した理論で、建物の窓が割れているのを放置すると、誰も注意を払っていないという象徴となり、やがて他の窓もまもなくすべて壊されるという考えです。
割れた窓を見た人が、「この場所は防犯に配慮しない」と感じ、犯罪を起こしても大丈夫ではないかと考えることから犯罪の発生件数が増えます。
- 治安の悪かったニューヨークでは、「破れ窓理論」を元に、徹底的に町の落書きを取り締まった結果、凶悪犯罪も減少しました。
- 草だらけの公園や落書きだらけの町を見た人は、「この場所は防犯に配慮しない」と感じ、犯罪が増加してしまいます。
町をきれいにしましょう。

